

## 資料 - 5 に関する天野委員の意見

## ( 1 ) 論点 A-1

水辺の国調の結果を詳細に検討することで、河川環境の現況把握につながります。この結果をまとめることで、河川環境目標の設定（計画）に利用が可能と思います。

## ( 2 ) 論点 B-2

今後、これまでの結果を解析することで、類似結果を示す地点や時期を見つけて、調査を絞ることが今後できる可能性はあると思います。しかし、絞るにしても、その妥当性を慎重にみる必要はあると思います。

## ( 3 ) 論点 B-3

B-7 にも関連しますが、他省庁の調査との重複は要チェックと思います。また、都道府県による類似調査も同様と思います。むしろ、うまく連携できると良いと思います。

## ( 4 ) 論点 B-5

対応案例示 のプランクトンですが、測定を水質調査と同時に同地点で行うのは、良いと思います。現状では、別に行われているのでしょうか？だとすれば問題だと思います。

特に動物プランクトンについては、データ利用があまりできていないと思います。データの代表性の議論もあると思います。専門家に聞くことで、本当に必要かどうかチェックした方が良いと思います。

## ( 5 ) 論点 B-7

他の環境調査結果との統合的な計画や利用を進める必要があると思います。添付のパワーポイントは、各種調査結果を統合した解析例と、課題の例です（このために作成したものではないので、舌足らずですが）。

## ( 6 ) 論点 B-9

標本の保管は、大変重要な視点だと思います。量の算定が必要と思いますが、保管のネットワーク作りあるいは、一括した保管ができると良いと思います。（国総研ができると良いのですが、現状では難しそうです）。